

## 特別展 国宝「鳥獣戯画」のすべて

東京国立博物館 平成館（上野公園）

2021.04.13～05.30

日本で最も有名な絵巻である国宝「鳥獣戯画」の正式な名称は「鳥獣人物戯画」であり、合計44mを超える巨大な画面に動物や人間たちの営みを個性ゆたかに擬人化して、彩色画ではなく紙本墨画で躍動的に描かれている作品である。

本展は、展覧会史上初めて「甲乙丙丁全4巻の全画面」を一挙に公開する企画で、さらに原本では失われた場面を留める標本の数々も終結し、まさしく、《鳥獣戯画のすべて》を堪能できるため、またとない鑑賞の機会である。

よく似通った「甲巻」と「丙巻」の擬人化された兔、猿、蛙は勿論のこと、「乙巻」と「丙巻」の鶏や犬、「乙巻」と「丁巻」の馬と牛といった動物を見比べると、各巻の線の違いが良く分かる。その他、「甲巻」と「丁巻」の法絵（ほうえ）の場面、「丙巻」と「丁巻」の験競（げんくらべ）といった人間と動物が同じ行動をしている場面を比較して見るなど楽しみ方は無限大である。



甲巻：平安時代 30.4 x 1148.4cm  
兔と蛙が猿を追いかけている



乙巻：平安時代 30.6 x 1189cm  
獅子がおたけびをあげている



丙巻：鎌倉時代 30.9 x 933.3cm  
鶏同志の戦いを見ている



丁巻：鎌倉時代 31.2 x 1130.3cm  
息を吹きかける坊さんの先で  
うづくまっている人は何をしているか